

平成27年度第1回徳島県障がい者自立支援協議会議事録

1 平成27年7月3日(金) 午後3時30分から午後4時30分まで

2 場所 徳島県庁 10階 大会議室

3 出席者

委員

岩城由幸、 大下直樹、 加藤有騎、 久米川晃子、 久米清美、
佐々木輝記、 島義雄、 長樂千英子、 堀本孝博、 松下義雄、

事務局

障がい福祉課4名、健康増進課2名、特別支援教育課1名、
東部保健福祉局1名、南部総合県民局1名、西部総合県民局1名、
精神保健福祉センター1名、発達障がい者総合支援センター1名、
障がい者相談支援センター4名

4 会次第

i 開会

ii あいさつ

iii 議事

- (1) 会長、副会長選任
- (2) 自立支援協議会について
- (3) 平成26年度人材育成事業の結果について
- (4) 平成27年度人材育成事業の予定について
- (5) 在宅重度障がい児の受入施設について
- (6) 計画相談の進捗状況について
- (7) その他

iv 閉会

【あいさつ】

日頃の本県障がい福祉行政の推進に対して、格別の御協力、御理解について謝意。

本日は、自立支援協議会について、人材育成事業について、在宅重度障がい児の受入れについて、計画相談の進捗状況についてなど順次事務局より説明いただくので、忌憚のない御意見をお願いしたい。

【議事】

(1) 会長、副会長の選任について

会長の選任について委員から意見を募ったところ、富澤前会長の後任となられた岩城委員を会長とする案が出された。これに対し各委員が賛成の意を表明し、岩城会長が選出された。副会長は岩城会長の推薦により堀本委員が引き続き努めることとなった。

(2) 自立支援協議会について

事務局より県の機構改革に伴う要項の変更について、自立支援協議会の位置付け、機能、各部会での開催状況、検討内容について事務局より報告。

【質疑応答】

会長 この件に関しましてご質問等はございませんでしょうか。

質問なしのため次の議事項目へ

(3) (4) 人材育成事業の結果報告及び新年度計画について

事務局より、(3) 平成26年度人材育成事業の結果について、(4) 平成27年度人材育成事業の予定について資料に基づき説明。

【質疑応答】

会長 この件に関しまして御意見等はございませんでしょうか。

意見なしのため次の議事項目へ

(5) 在宅重度障がい児の受入施設について

事務局：この件につきましては、板野郡自立支援協議会より提言書の提出がありました。松下委員が板野郡自立支援協議会の所属ですので経緯等の御説明をお願いできれば、と存じます。その後で各委員からの御意見をお願い致します。

松下委員 障がい者生活支援センター凌雲の松下と申します。僕は板野郡の自立支援協議会の方にも参加しておりますので、代表としまして、今、板野郡でも課題となっている、重症児、特に医療ケアを要する子どもさんの支援についての整備が、徳島県に限らず、全国的にもそうだと思うんですけども、非常に遅れていて、そのために家族の方が非常にご苦労しながら毎日お世話をされている、大変な状況でお世話されているという状況があります。これは広域的な課題にもつながりますので、是非、県としての取り組みの中で実施をすすめていただきたいと思い、提言書としてまとめさせていただきました。

今、県下各市町村で実施されております地域自立支援協議会では、市町村で出来る課題については市町村で取り組んでいく、こういう広域的な課題については県の自立支援協議会でその対策について検討していくという流れがやっと出来ておりますので、是非、この課題についても検討いただければと思っています。

それで、まず、提言書の内容に入らせていただきます。これに至った経緯ですけれども、ここに書いておりますとおり、（提言書・提言に至った経緯部分、朗読）で、このことが提言に至った次第です。

具体的な提言の内容なんですけれど

- 1 重症児の地域生活における現状と課題の把握。
- 2 重症児の地域生活を可能にする体制整備のための取組や検討の場の設置。
- 3 支援、サービスの充実、支援に関わる関係者の人材育成、必要経費についての予算化といったことが上げられるかと思います。

この件について、県の方で具体的に、データの的に、調査をしたりとか、そういうことって今まであんまり無かったんじゃないかなと思うんですけど。

僕が把握してなかったら申し訳ないんですけども、ありましたら是非、教えていただきたいと思うんです。実際、数は少ないですけども、私たちが相談を受けている家族の方の中には、24時間付きっきりの医療ケア

が必要で、自分の寝る時間を削りながら介護をしている方、仕事、子育て世代の方で、この子をみないといけ
ないから仕事をしたくても諦めざるをえないという方が、実際にいらっしゃいます。

そういうことに対して、実際にそういう方が県内にどのくらいいるのか、どういうふうなニーズをもってお
られるのか、ということ、県下的に一度調査をして欲しいと思っています。実際徳島県で検討し、施策を考
えていく上で、こういう件数がわかってないと、センターの羽田さんが言われましたけども、形だけ作っても
機能しないのではないかと。

計画をすすめていく上でその辺のことをやって欲しいと思います。

この体制整備については国においても、確か平成 24 年度くらいからモデル事業を実施しております。で、
このモデル事業の形に特にこだわる必要はないと思うんですけれども、こういうことも参考にさせていただいて、
体制整備にあたって検討の場を設けていただきたいと思います。その場合は、ぜひ当事者の声を聞いていただ
きたいと思います。私たちが相談を受けていても、家族のこの声をどこに言って行けばいいのかと
思っている家族の方がたくさんいらっしゃいます。そういう意味でも、家族の方をそういう中に参画して
いただいて、是非、意見を聞いていただきたいということです。そういう場を是非設けていただきたいと、
思っています。

それと、提言内容の 3 番目について、重症児の受け入れ事業所の拡大についても、その支援にあたる上でも、
やはり医療的なケアが重要になってきます。その辺で私たちも、相談支援をしても、なかなかノウハウが
充分についておりません。いきなり、病院から退院するからお願いしたいということで相談されても、その支
援の方法すらなかなかわからない。

幼い子どもさんであれば、地域にその支援サービスがなかなか無いんですよ。子どもさんのいろんな医療器
具 1 つとっても、子ども用の専用医療器具を持っている事業所はほんとうに少ない。他にも、大人は大丈夫だ
けど、子どもは今まで対応したことがないという理由で拒否されたりとか、やはり、事業者の方もいろいろ
ハードルが多い現状にありますので、その辺をすすめるにあたって、ぜひ人材育成の区分についても併せてや
っていただきたいということです。

また、そういう場を設けるための費用についても、予算化をして欲しいということで、提言書としてまとめ
させていただいております。

このことは、在宅でいらっしゃる地域の重症児の方のご相談を引き継ぐ中で、確認をしてまとめさせてい
ただいたことですが、ひのみねさんは実際に重症児の病棟を持っていらっしゃるの、病院の中でのそう
いうケアについての課題などもあると思いますので、その辺についても、併せてご意見を頂きたいと思
います。

会長 松下さんありがとうございました。そうしましたら、委員のみなさんで意見交換していただく前に、事務
局、県の方でアンケート、実態調査とかそういったことを今までしておられるのかどうかお聞きしたいと思
います。

事務局（田中所長） 障がい者生活支援センター凌雲の松下さん、本当にありがとうございます。今のお話の中で
板野郡さんのお膝元はというと東徳島医療センターが近くにありますね。いわゆる、入りたいときに入れな
いという悩みというのは、これまでも言われてきました。病床機能の部分とすれば、例えばひのみねさん
には NICU の後方支援病床がありまして、それは今課題となっております場面で対応できるような、あるいは
NICU にずっと入っておられる方で、もうその専門病棟にいる必要がないような方に対して対応が出来るも
のだと思います。後方支援病床は各所に設けられてきたんですけど、実際にひつ迫感ということ、データと
して整理したことは実はないんですね。

ですから、これはすばらしい問題提起で、全国的にも、先ほど松下さんからお話いただいたように、平成 24
年度から課題として、国のモデル事業を確かに 3 年間やっております、その 3 年目がやっと去年終わったん
です、26 年度に。

その成果について様々なパターンを全国各地で検証していきまして、そのパターンを全国の都道府県の皆さん

や自立支援協議会をもたれている関係者の皆さんに見ていただきたいということでホームページ上にアップはしていただいているはずなんですけども、まだちょっと行き届いていなかったんです。そういった中で逆にお伺いしたいんですが、東徳島医療センターさんのお膝元の板野郡さんで、そういう入りたくても入れなかったような実状やそういう具体的な例が、数が多く存在したんでしょうか。全国的にはそういう傾向があるということ、我々も漠然とした話として聞いていますが、板野郡さん、あるいはひのみねのある小松島市さんで、より具体的な話として、そうった危機感を感じるような事例があったのかと思って、逆に今日、そのあたりをお伺いできたらなと思っておりましてところでございます。

会長 ということで、今の事務局の説明をふまえた上で意見交換していきたいというふうに思います。今、事務局から出た質問に対してお願いします。

松下委員 実際、東徳島医療センターは、重症児のケアを行っております。ただ、話によると小児科医が一人しかいないということで、医療ケアの内容によって、受けられる、受けられないということがあるみたいです。

ひのみねさんは割と重度の自閉症の方でも受け入れていただけるんですけども、それでも、重度障がい児については、なかなか受けしてもらえないという現状は、うちの相談員からも聞いております。

地域の事業所でも同じように、今、児童の通園施設で重症児の受け入れをしている施設というのは、県下でも10カ所くらいあるんですが、そういう医療ケアまで受け入れられるという事業所になると、かなり数は減って、もう、2、3カ所とかそういう数になってしまう、というのが現実です。

島委員 松下さんの板野郡自立支援協議会の方でこういう形の提言書をまとめていただき、非常にありがたいところですよ。

この件について、前年度の会でも少し触れさせてもらったんですが、やはり切実な問題であると思います。この問題は、重症児だけに光を当ててではなく、者の方でも同じだと思うんですけど、者の方ってというのは、本当に高齢の親御さん、親亡き後、その部分で児とは違う局面から大きな負担、まあその思いの負担というんですかね、非常に大きいものがあります。

ここ最近では在宅で重度の障がいをお持ちの方々に対するケアも充実してきて、今までは地域で生活をなさってきていて、親御さんも体力的もなんとか家族機能も生かしながらこなしてきたけども、親御さんの高齢化に伴って、70代にさしかかってきたあたりから、ご本人も当然身体機能の低下というのがあります。次の受け皿がないと。それで、私どもの施設でいきますと、入所に手を挙げている方は40数人の待機待ちという格好で、まずなかなか順番が回ってこない、というのが現状です。それと、子どもさんも大人もそうですけど、我々の施設でもっているサービスは、日中一時支援、それと短期入所ですけども、もう、稼働率が非常に高く、申し込みをしても使えない状況、もうフルで稼働しているという状況にあります。

で、先程話が出てきましたが、NICUの後方支援をということで6ベッドとってまして、まあ6ベッド全て入れるっていうことは絶対的に無理なんですけど、今までに大学病院から2名を受けて、地域へ移行ということで協力もさせてもらってます。その方はある一定の期間、優先的にサービス利用を取りはからうというかたちで地域へ出さないと、在宅の生活での安心安定というのは、はかれません。しかし、そういうかたちでいったら、優先的なサービス利用がなくなった後は、ご家庭の方で、例えば主たる介護者である親御さんにトラブルが発生した場合、入院してきて短期入所利用、どうしても日数が長くなったら、また入所利用したりしないといけない、結局悪循環になっているというのが今の状況でないかなと思います。

冒頭、松下さんもおっしゃいましたが、この件については、自立支援協議会共通の案件であると思います。それぞれに地域は、同じような悩みを持っているということで、我々の所属する南部Iでは、今月の自立支援協議会の全体会で徳島保健所のNICU担当の小西さんに来ていただいて、この案件をみんなで検証しようということで取り組んでおります。

会長 ありがとうございます。それ以外の皆さんでご意見、何かこういうことがありますよというような

ことがありましたらよろしくお願ひします。

島委員 NICUの方を2名お受けして地域へという格好でいったんですけども、先程から松下さんも言ってますけど、地域で重症の子どもさんを診ていただける在宅医とか訪問看護とかっていう事業所がもう極端に少ないんです。まあ、たまたま徳島市出身の子どもさんであったので、何とかサービスをマネジメントして、地域に帰ることが出来たんですけども、我々の南部の圏域ですと、訪問してくれる在宅医はいないというのと、気管切開で人工呼吸器をつけている子どもさんについては診れないというのが現状です。保健所もこの件について、いろんな事業所の情報を集めて冊子も作ってますが、非常に少ない、むしろ現状では無いかなっていう感じは受けます。

会長 ありがとうございます。委員の皆さん、ご意見はよろしいでしょうか。事務局でまず、数としてどれくらいの方が、今現実困ってられるのかっていうのと、県全体でどういう対応ができるのかっていうのを押さえることが、まずスタートかなというふうに思います。まあ、何らかの手段で、どこが握ってるんでしょうね。保健所でしょうか？児童相談所ですか？

事務局（田中所長） やはり、重度となると、病院に限られてきますよね。ひのみねさんとそれと東徳島医療センターと、あと、難病の関係があるので、徳島病院ですかね。その3つが基本的に中心になってくるかなと思いますので、その辺のやはりリサーチですかね。その待機状況などを過去何年間か調べた中で、この県の自立支援協議会は全県的な課題を一つ一つ認識を共有するということですので、ここで議論した中で板野郡さんや南部の方というのは意識があるのは分かりましたが、西部の方での意識も含めて、出来れば、今後それぞれの自立支援協議会の各地域で、やはり、いくところは家庭回帰というのも含めて、なかなか医療支援が出来る施設には入れなくて困っているという話はありませんかというのを、アンケート的なかたちで一緒に調べていて、そして県下全域での共通認識にする中で、平成28年度に向けて国がいろいろ事業展開も考えているみたいですので、そういった事業が本県にとってどれだけ効果をもたらすのかを検証しながら、前にすすめていけたらと考えております。

会長 はい、どうもありがとうございました。そうしましたら、この件につきましては、事務局がまずアンケート的なものをふまえて県全体の状況を把握していくということで、個別な課題等につきましては推進部会の中で今後も引き続き論議をしていただくというかたちで、全体状況をまず把握した上で次のステージにすすむということになるかと思ひます。

それと同時に、国が新しい制度をスタートさせる時に、県としてどうのっていくのかというところは、予算要求やこれから国の概算とか出てきたときにある程度みえてくる部分があるかとは思ひます。

そのところも含めて、また全体会議の中でご報告いただければと思ひますので、よろしくお願ひします。よろしいでしょうか。（異議無しの声あり）

それでは6項目目、計画相談の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

(6) 計画相談の進捗状況について

計画相談の進捗状況について事務局より説明。

会長 この件に関しまして御意見等はございませんでしょうか……。ないようなので議事の(7)その他ということで、本日の会議全般に関して、また、今後の自立支援協議会に関して、それぞれのお立場からの報告事項、県に対しての要望等、何でも結構ですでお出しいただければと思ひます。

ございませんでしょうか。

それでは意見も尽きたようでございますので、これをもちまして本年度第1回目の徳島県障がい者自立支援協議会を閉じたいと思ひます。それではマイクを事務局にお返しします。事務連絡等ありましたらよろしくお願ひします。

事務局 岩城会長、どうもありがとうございました。本年度第2回目の会議につきましては、11月下旬ごろを

目途に開催したいと考えております。

また、推進部会についても日程調整等を含めて改めてご連絡を差し上げますので、よろしくお願い致します。

それでは、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。お気をつけてお帰りください。